

マレーシアで植物や微生物資源から有効物質を探索するベンチャー、ニムラ・ジェネティック・ソリューションズ(東京・品川、二村聡社長)が海外進出に乗り出した。南アジアの小国、ブータンと共同研究契約を締結。医薬品の「種」となる生物資源の探索、活用を支援する。手探りで探索手法を構築して10年あまり、技術と実績を他国にも提供する段階に入った。

バイオ新

ニムラ・ジェネティック・ソリューションズ

ニムラ・ジェネティック・ソリューションズの概要

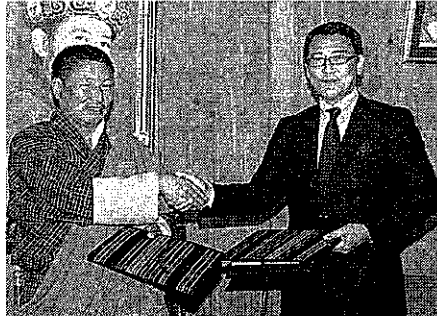
▽所在地 東京都品川区大崎1の19の10

▽設立 2000年6月

▽資本金 4億2000万円

▽従業員 16人

▽事業内容 生物資源からの有効物質探索



調印式に臨む二村聡社長(右)とブータンのガンジョー農業相

共同研究はまず技術イオ技術を生かし臨床試験を踏まえて有効成分のマレーシア全土で植物や微生物、海中の藻類などを10月に特定も進めていく予定だ。5年後をメドに有効成分の利用権を海外の化学・製薬会社などに供与する。

ブータンとの共同研究は、第一三共やアステラ製薬をはじめ国内外の製薬会社や化学メーカーとして実用化できる確率は1万分の1以下といわれるが、生物多様性条約もあり、新薬開発のハードルは一段と高くなっている。ニムラの事業は資金を、2009年3月期の売上高は1億9千万円、研究資金を中核に1億円強に拡大している。そんな同社の夢は、マレーシア国外の生物資源にアクセスすることだ。アジア地域だけでなく中南米やアフリカなど、他地域の国での研究も視野に入っている。成果が試金石になる。

(林さや香)

外国政府と「薬の種」探索

8月中旬、二村社長はブータンの首都ティンブプーにいた。同国のガンジョー農業相と共同研究契約に関する覚書に調印するためだ。「生物資源の管理方法や商業利用の方法について、ブータンに

とって最善な方法を共に考えていきたいと思います」。二村社長の言葉に農業相は力強くうなずいた。ブータンはインド北部、ヒマラヤ山脈南部に位置する。民主化して間もなく、経済発展の指標がない。国土の広さは九州とほぼ同じで人口も100万人に満たない小国だが、ニムラには魅力的な伝統薬を研究、製造する国立機関も備わっており、「伝統薬を西洋医学の手法で臨床試験できる可能性がある」(二村社長)と存在する可能性がある。現地住

ない。国土の広さは九州とほぼ同じで人口も100万人に満たない小国だが、ニムラには魅力的な伝統薬を研究、製造する国立機関も備わっており、「伝統薬を西洋医学の手法で臨床試験できる可能性がある」(二村社長)と存在する可能性がある。現地住

民の使い方や呼称、薬効情報を収集を開始。当初はアジアなどの国で菌などの微生物を勝手に収集し、医薬品を開発していったといわれる。しかし、現在は生物資源は生息する国に属する生物多様性条約という国際ルールがあるため、研究に着手することすら容易ではない。

開発候補物質を医薬品として実用化できる確率は1万分の1以下といわれるが、生物多様性条約もあり、新薬開発のハードルは一段と高くなっている。ニムラの事業は資金を、2009年3月期の売上高は1億9千万円、研究資金を中核に1億円強に拡大している。そんな同社の夢は、マレーシア国外の生物資源にアクセスすることだ。アジア地域だけでなく中南米やアフリカなど、他地域の国での研究も視野に入っている。成果が試金石になる。

(林さや香)

先端技術・医療